

五組合除名となり、所謂内紛問題は起つたのである。ある等である。然し我等は最高機関に訴へて其態度を決めよう。未だのである。我等再び本問題を報告するに當り、次々方法をしてやる。此れは煩雜な事である。時局の存続に依るの声明によつて既に明なるが故である。即ち事実の経過を列挙的に報告する考へである。

同盟會被除名派の態度

同盟會被除名派の態度は、去年四月廿日開催せる関東鉄工組合大會に於ける土井排弁問題の惹起、排弁第一等の所掲共産党政策としての組合奪取策、内情を暴露されて、結局杉浦の同盟執行委員辭職を以て此問題を納めた。日本電氣の爭議に於ける彼等尚代表的なものとして、日本電氣の爭議に於ける彼等

の言動

予行演習に過ぎないからである。以上の方に於ては、党派を以て統一を乱し、内訌を行ひ、其を機として幹部排斥をなし、常に外部の同系勢力と策應して、勢力の拡張に努めつゝあつたのである。

関東同盟大會と退場問題

斯くて十月五日の同盟大會なるに及んで、彼等の醜態なる塊膽は暴露した。即ちこの大會準備委員たるを、利用して傍聴券を多く造り、之を所謂共産党一派と称せらるる者に配り、以て彼等の大会振りを、関東同盟を自分らのものにしたり、たかの如き有旅を、観念と考へた。従つて彼等の空虚なる主張が一一つ否決せしめらるるや、遂に日議長横暴の幹